

第二章 想起型環境家計簿「環境日めくり日記」の試作

本章では、本研究で提案する想起型環境家計簿について説明をし、実際に試作した「環境日めくり日記」について説明する。

2-1 想起型環境家計簿とは

本研究で提案する想起型環境家計簿とは、ある設定された「言葉」から主体が想起した行動を書き記し、その行動ができたかどうかを確認するものである。例えば、「もったいない」という言葉から、水を出しっぱなしにしている状態を想起し、「水を出しっぱなしにしない」という行動を書き記すことになる。

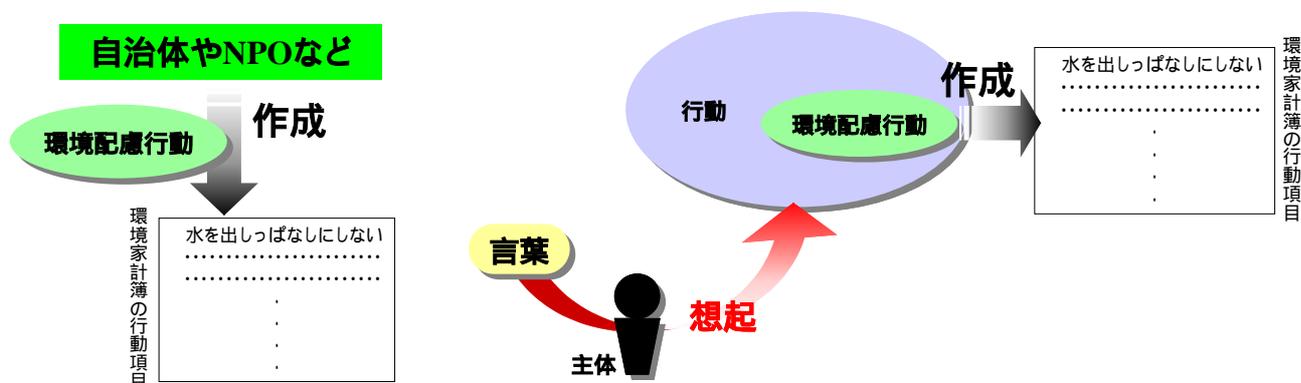


図 2-1 従来型環境家計簿の作成

図 2-2 想起型環境家計簿のコンセプトと作成

従来の環境家計簿では、与えられた環境配慮行動という枠の中での行動をチェックしていくことになるため、みんなが同じ環境家計簿をつけることになる。一方、想起型環境家計簿は主体が想起する行動は主体によって違うことから、自らの環境家計簿が出来上がっていくはずである。

2-2 「環境日めくり日記」の試作

想起型環境家計簿の試作にあたって、いくつか考えられる形式の中で、本研究では日めくり式のものを作成した。

日めくりである理由は、

- 1) 日々更新しうるものが必要であるということ
- 2) 日めくりの一日一言に想起させる言葉を編集できるということ

の2点が挙げられる。

また、言葉から想起される行動は自由に書けるようにしたことから、日記のような形式になったので、合わせて「環境日めくり日記」と名づけた。

日めくりとしては365日想定できるが、調査を行うために1週間のものを作成した。

2-2-1 「環境日めくり日記」で用いる言葉について

現代では様々なライフスタイルが存在し、ひとりひとりの価値観も多種様々であることは容易に想像できよう。そこで、本研究では日本人が共通して持っているかもしれない心や感性に注目した。ここでいう心や感性とは、昔から長い間に日本人が生活していく上で培われてきた価値観や行動規範のことである。具体的に着目した価値観や行動規範は日本人の生活の中に溶け込んでいると思われる神仏や風流の思想などから生み出される行動規範である。例えば、神仏の思想なら、神仏をおそれ敬うことで、規律のある行動を促すことができるのではないだろうか。また、風流の思想なら、優雅でありたい、豊かでありたいと思う心が自然を愛する行動を促すことができるのではないだろうか。本研究で試作した「環境日めくり日記」は想起型環境家計簿のなかでも日本版想起型環境家計簿といえるのかもしれない。

「環境日めくり日記」の各日の言葉を格言として、「もったいない」、「足るを知る」、「恵み」、「旬のもの」、「知恵袋」、「のんびり」、「花鳥風月」という格言を設定した。「もったいない」と「足るを知る」はものを大事にさせる行動を起こさせるために選んだ。「恵み」と「旬のもの」と「花鳥風月」は自然のものを意識させるために選んだ。「知恵袋」は暮らしの工夫を促させるために選んだ。「のんびり」は主に交通行動を意識させるために選んだ。以下の図 2-2 では、それぞれの言葉から想起されるのではないかという行動を矢印で結んだ。例えば、「もったいない」からは従来の環境家計簿のカテゴリーである「水」、「電気」、「ガス」、「食べ物」、「ごみ」のような行動が想起されるのではないかと考えられる。また、本研究では従来の環境家計簿では表せなかった環境質も評価できるようにした。環境質の例としては、「自然」が考えられる。



図 2-3 「環境日めくり日記」の言葉の設定とねらい

2-2-2 「環境日めくり日記」のインターフェイス

実際に試作した「環境日めくり日記」の1日分を説明したものが以下の図 2-3 である。

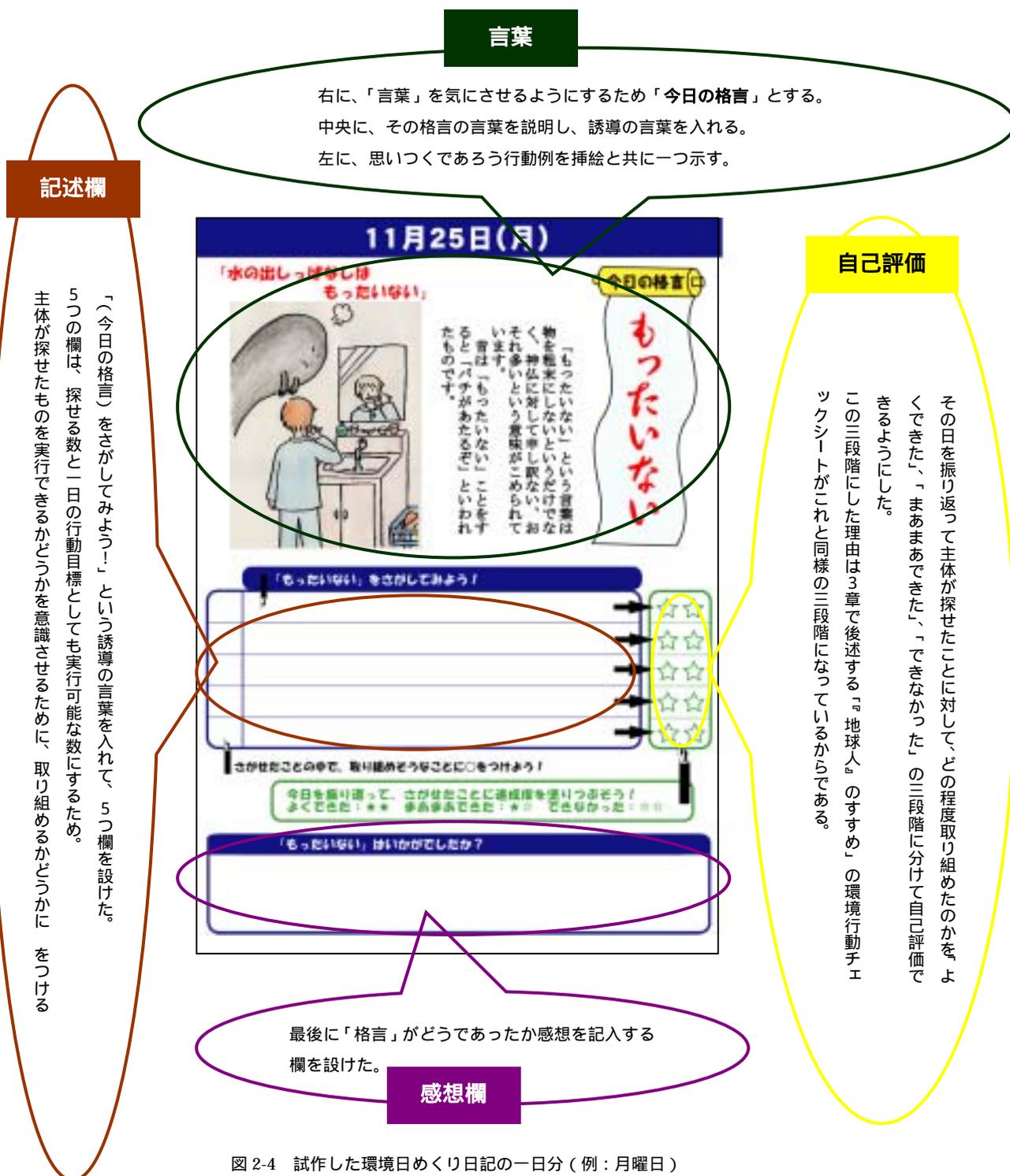


図 2-4 試作した環境日めくり日記の一日分（例：月曜日）

そして、以下に続く図 2-4 から図 2-13 の 10 枚をひと綴りにして一冊にしたものが「環境日めくり日記」である。（大きさは A4）



図 2-5 「環境日めくり日記」の表紙



図 2-6 「環境日めくり日記」のはじめに

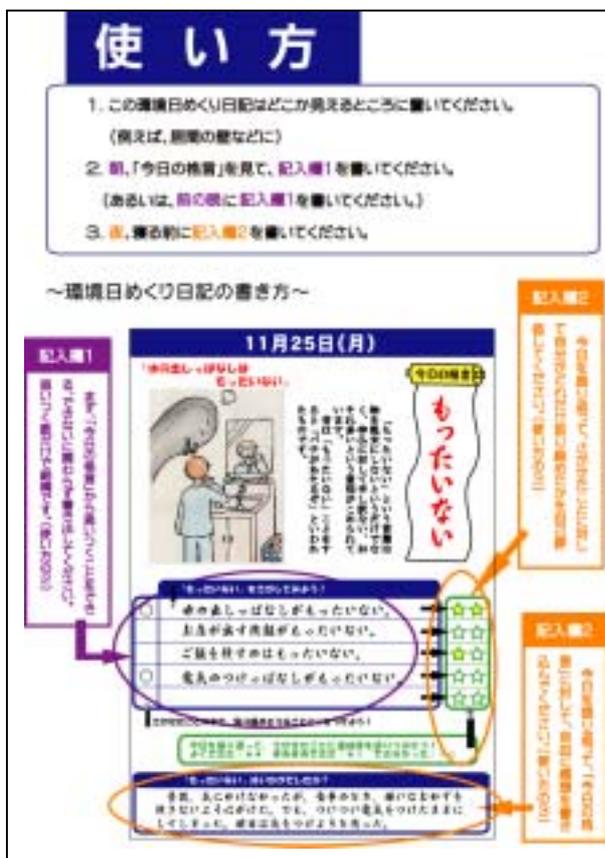


図 2-7 「環境日めくり日記」の使い方



図 2-8 「環境日めくり日記」の月曜日

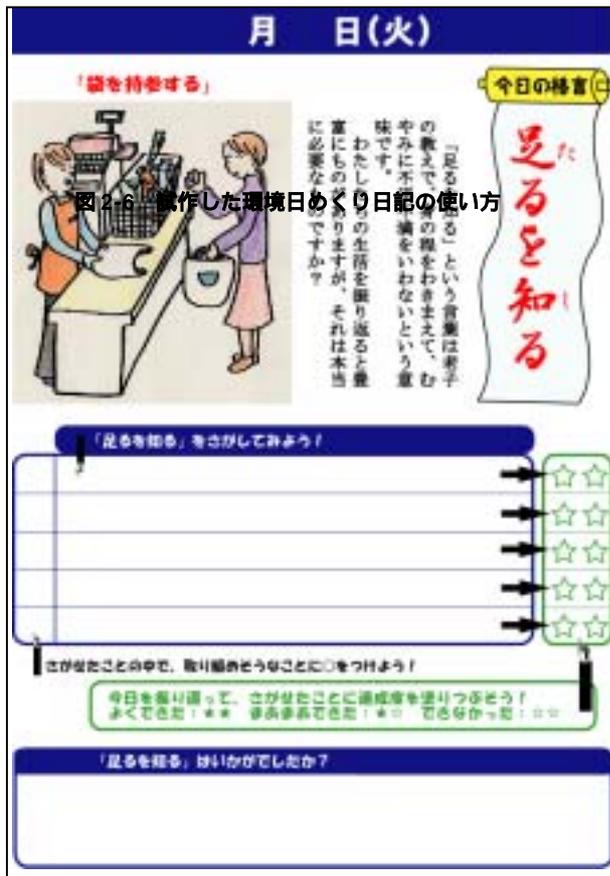


図 2-9 「環境日めくり日記」の火曜日分



図 2-10 「環境日めくり日記」の水曜日分



図 2-11 「環境日めくり日記」の木曜日分



図 2-12 「環境日めくり日記」の金曜日分



図 2-13 「環境日めくり日記」の土曜日分



図 2-14 「環境日めくり日記」の日曜日分

2-2-3 「環境日めくり日記」の使い方

「環境日めくり日記」には、「今日の格言」から主体が想起した内容、また、その内容を主体に意識させることが重要である。そして、想起した内容が実際にできたのかどうかを主体自ら確認できることが必要である。したがって、以下のような使い方を設定した。

家の中のどこか見えるところに置く。(例えば、居間の壁など)

朝、「今日の格言」を見て、記述欄に想起した内容を記入する。

(あるいは、前日の寝る前に記述欄に記入しておく。)

夜、寝る前に自己評価と今日の感想を記述する。

その後、その日のうちか、次の日の朝に日めくりをめくる。

以上のような手順で、「環境日めくり日記」をつける。で朝か前日の夜でもよいとしたのは、主体が使いやすいように配慮したためである。また、これによって結果が損なわれることはない判断した。

参考文献

- 1) 中野孝次：清貧の思想，草思社（1992）
- 2) 松岡正剛：遊行の博物館，春秋社（1987）
- 3) 松岡正剛：花鳥風月の科学 - 日本のソフトウェア - ，淡交社（1994）
- 4) 松岡正剛：日本数奇，春秋社（2000）
- 5) 鮫島純子：あのこと、今、これから・・・，小学館（2000）
- 6) 竹林征三：東洋の知恵の環境学，ビジネス社（1998）

